

かがや
キラリ！輝く1冊

中学生にすすめる本

2024



このリストには、2023年に出版された作品を中心に、
図書館員が読んでおすすめする本を掲載しています。

調布市立図書館

日本の小説

カーテンコールはきみと

神戸遥真作 偕成社 913 J

憧れの演劇部がある干城中学校に入学した律希は、入学3日目にして、演劇部が廃部寸前であることを顧問から告げられます。そこで律希は、部を立て直すため、同じ入部希望者の1年生夏帆と、二人きりで新歓公演を行うことになりますが…。演劇や仲間との友情を通して、自分と向き合い、成長していく中学生たちのお話です。

NO

Image

シタマチ・レイクサイド・ロード

濱野京子作 ポプラ社 913 H

友だちに頼まれて人数あわせのため文芸部に所属した希和子。読書は好きな希和子ですが、創作に情熱を傾ける個性的な部員と、創作ができない自分を比べてコンプレックスを感じていました。同じ高校に入学してきた先輩の朔には、部員に明かせない思いを話せるようになり、自分らしい文芸との関わり方を見つけていきます。

NO

Image

杉森くんを殺すには

長谷川まりる作 くもん出版 913 A

高校1年生のヒロは、義兄のミトさんに「杉森くんを殺すことにしたの」と打ち明けます。ヒロの真剣な思いを受け止めたミトさんの助言を受け、ヒロは自分のやりこしたことを消化しながら、杉森くんを殺さなければならぬ理由をまとめていきます。杉森くんとヒロとの間に何があったのか、謎が少しずつ明らかになっていきます。

NO

Image

波あとが白く輝いている

蒼沼洋人著 講談社 913 7

10年前に震災で母を亡くした小学6年生の七海には、母の記憶がありません。母の同級生と出会い、子どもの頃の母の姿を追ううちに、母が実行委員長として打ちこんだ学校の伝統行事「海光祭」のことを知ります。コロナ禍で様々な制限を受けた小学校生活の最後に、七海は震災によって途絶えた海光祭を復活させようと決意します。

NO

Image

夜空にひらく

いとうみく著 アリス館 913 4

暴力事件を起こし、試験観察処分となった17歳の鳴海円人。彼の補導委託を受けたのは、煙火店（花火の製造所）を営む深見静一でした。円人は審判までの期間、深見の家で生活することになります。深見の一家や、住み込みの職人たちと交流し、煙火店を手伝う中で、円人は居場所を見つけ、過去の自分と向き合っていきます。

NO

Image

ルール！

工藤純子著 講談社 913 7

校則違反だからとスマホを1週間も没収されたうえ、職員室で反省文を読まされた知里は、校則によって「中学生らしさ」を押しつけられることに疑問を持ちます。

NO

Image

『中学生の主張コンクール』で、自分たちは「一方的に抑えつけてもいい存在」ではないと訴えたことをきっかけに、生徒主導の校則見直しプロジェクトが動き始めます。

海外の小説

アフガンの息子たち

エーリン・ペーション著 小学館 949 ㍈

スウェーデンの難民児童入居施設で働くレベッカは、アフガニスタンから来た3人の少年たちの支援を担当することになります。規則に従い彼らに深入りしないよう努めるレベッカでしたが、共に過ごす内に、仕事と割り切れない気持ちが生まれます。やがて、国の都合に振り回され、追いつめられた少年たちとの悲しい別れが訪れます。

NO

Image

アンナの戦争

ヘレン・ピーターズ作 偕成社 933 ㍿

12歳のアンナは、ユダヤ人迫害から逃れるため、キンダートランスポートという救援活動によって、ドイツからイギリスに渡りました。新しい生活に慣れたころ、納屋で負傷兵と出会います。アンナは、イギリス兵だと偽って隠れる彼の正体と、その恐ろしい計画に気づき…。90歳になったアンナが、第二次世界大戦の記憶を語ります。

NO

Image

クルックハイブーン 義賊の学園

J. J. アルカンジョ著 理論社 933 7

祖母と二人で貧しい生活を送っていたガブリエルは、スリの才能が認められ、世界を良い方向に導くための義賊を育てる学園<クルックハイブーン>に入学します。<犯罪歴史>の授業で知った危険な犯罪組織<ネームレス>について調べていくうちに、消えた両親と学園の関わりが明らかになり…。

NO

Image

葉っぱの地図

ヤロー・タウンゼンド作 小学館 933 ㍿

植物の声を聞くことができる12歳のオーラは、野いばら村の木の小屋で、庭の植物とくらしています。ある日、周囲の町で病がはやりはじめ、港町の総督から病気の原因である植物を一掃するよう命令が出されます。オーラの庭の植物も焼かれてしまいそうになり、オーラは、病気は植物のせいではないと証明するため立ち上がります。

NO

Image

ボンジュール、トゥール

ハンユンソブ著 影書房 929 ㍈

フランスの町トゥールに越してきた韓国人の少年ボンジュ。韓国人は住んだことがないはずの引っ越し先の家には、なぜか「生きぬかなければ」というハングルの落書きがありました。クラスメイトの日本人トシが韓国語を話せることを隠していると気づいたボンジュは、トシが落書きに関係しているのではないかと秘密を探ります。

NO

Image

☆リックとあいまいな境界線

アレックス・ジーノ作 偕成社 933 ㍿

中学生のリックには、悩みが2つあります。恋愛に興味がないことと、LGBT+を差別するジェフと親友でいていいのか、わからなくなったことです。リックは、レイおじいちゃんと過ごす日曜日や、いろいろな性のあり方について話しあう課外クラブ<レインボーズ>の活動から、ありのままの自分である大切さを知ります。

NO

Image

わたしの名前はオクトーバー

カチャ・ベーレン作 評論社 933 へ

オクトーバーは、父さんと二人で森にこもって暮らしています。11歳の誕生日に母が会いに来ますが、野生であることに誇りをもつオクトーバーは、森での暮らしを捨てて都会に出た母を許せず、木の上に隠れます。ところが、追いかけてきた父さんが木から落ちて重症を負い、憎んでいる母と大嫌いな都会での生活が始まります。

NO

Image

調布市立図書館のホームページから

本の検索・予約ができます。



「調布市立図書館ホームページ」

QRコード

ノンフィクション

10代のうちに考えておきたいジェンダーの話

堀内かおる著 岩波書店 367 木

「男の子は弱音を吐いてはいけない」「女の子はかわいいものが好き」のように、性別で決めつけられたことはありませんか？こういった社会や文化の中でつくられる性差のことを「ジェンダー」と言います。「男らしく・女らしく」に関係なく、誰もが自分らしく生きるために、ジェンダーの問題を考えてみませんか。

NO

Image

「よく見る人」と「よく聴く人」

広瀬浩二郎／相良啓子著 岩波書店 369 七

目が見えないことや耳が聞こえないことを「障害」と考える人は多いでしょう。しかし、耳の聞こえない「よく見る人」相良さんと、目の見えない「よく聴く人」広瀬さんは、自分の障害を1つの「文化」だと捉えています。二人の対話から、異文化（他者）を知る楽しさと、コミュニケーションの可能性に気づくことができる1冊です。

NO

Image

リーゼ・マイトナー

マリッサ・モス著 岩波書店 289 7

男尊女卑やユダヤ人への迫害に屈することなく研究にいどみ続け、「核分裂の発見」という偉業を成し遂げたリーゼ・マイトナー。しかし、彼女の発見によって原子爆弾が発明され、「原爆の母」となってしまいます。不当な扱いを受けながらも、科学者としての道徳を大切に、「人間性を失わなかった物理学者」の伝記です。

NO

Image

※文字を読むことが難しい方は、音声版を利用できます。
図書館へご相談ください。

○表紙デザイン

調布市立第三中学校3年生
塚田さらさん

中学生にすすめる本 2024

令和6年8月発行

調布市立図書館

刊行物番号

2024-96